

後輩たちへのエール！ その21

2020年5月12日

出会いに感謝 ～学生時代を振り返って～

◇今回は、杉下栄里華さん（桜ヶ丘中学校教諭）のエールです！

はじめまして。平成24年度卒業生の杉下絵里華と申します。今年度から関市立桜ヶ丘中学校で勤務しています。新型コロナウイルスが猛威を振るう今、受験への不安や部活ができない悔しさ、友達と会えない寂しさ等複雑な思いを抱えながらお過ごしのことと思います。私自身も、一日も早く生徒と共に学校生活を送ることができるよう祈る毎日です。当たり前だと思っていた日常がいかに有り難いものなのかということに改めて痛感しています。

さて、今回は高校時代お世話になった先生から依頼を受け、頑張る皆さんをほんの少しでも応援できたらと思い、書かせていただきました。

●高校時代

私には「教師になりたい」という夢がありました。夢を叶えるために、大学進学は絶対条件だと考えた私は、進学校である関高校に入学し、教師への道を探り始めました。大学を調べてみると、教育学部のある大学は思っていたより多く、どこに決めたらよいか非常に迷いました。もちろんどの大学にもそれぞれ魅力があります。そこで、いくつかのオープンキャンパスに参加をしました。大学を選ぶ際に大切にすることは、ネームバリューや設備の良さではなく、「この先生の授業を受けたい」と思える教授がいるか、「こんな人になりたい」と思える先輩がいるかということでした。オープンキャンパスでは、ただ講話や模擬授業を受けるだけではなく、積極的に大学関係者に話しかけました。先生に質問をするのも躊躇するような私でしたが、この時ばかりはなぜか勇気が出ました。また、教育プログラムや卒業生の進路について、サークルの実績等、徹底的に調べ、大学を決めました。私が選択した大学は、国公立でも一流私大でもありませんが、卒業した今、「この大学にしてよかった」と心から思っています。

休校期間中だからこそ、少し視野を広げて、進路先についてじっくりと調べてみるのもよいかもかもしれません。人と会うことは難しくても、調べることを通して何か新しい発見が得られるかもしれません。

●大学時代

オープンキャンパスで出会った憧れの先輩や教授との再会も果たし、大学生活がスタートしました。絶対に実りあるものにするぞと、全力で駆け抜けた日々でした。とにかく経験を積みたくて、サークル活動にボランティア活動、アルバイト、海外一人旅にホームステイ

と、大忙しの毎日でした。

その中で、特に大事にしていたことは人との「出会い」です。待っていても、出会いはやってきません。まずは行動を起こさなければと必死でした。自分が授業を受けている、受けていないに関わらず、「この先生と話してみたい」と思った教授の研究室にお邪魔したり、自分のやりたいことに関してアドバイスをくれる人を、紹介してもらったりしました。

中でも一番刺激を受けたのは、地理学の授業で特別講師として話をしてくださった I 先輩（卒業生）との出会いです。先輩は元々教員志望でこの大学に進学しましたが、「もっと知らない世界を見てみたい」と、在学中に教員採用試験を受けるのをやめ、お金を貯めて1年かけて世界中を一人旅しました。そこでの出会いに心を動かされた I 先輩は、教師の道ではなく、発展途上国に住む人々の自立を援助するべく起業するという道を選びました。地元の素材を生かして、凝ったデザインのかごを作り、日本で売ります。彼らには、作る手間がかかるかわりに少し大目に給料を払います。そして、そのお金で学校に通えるという訳です。発展途上国への同情ではなく、デザインと質の良さで選んでもらえる商品を販売できるよう、力を尽くしました。様々な困難を乗り越え、今では大手百貨店にも出品できるほどだそうです。村民たちも、先輩が安心して仕事を任せられるまでに成長し、自分たちの力で村は発展を続けています。私は、本当の支援の在り方というものを知りました。

先輩の話を知っている時、私はワクワクが止まりませんでした。一瞬で魅きつけられ、さっそく先輩に猛アタック。連絡先を交換し、もっと深い話を聞いたり、他に国際協力をしている人を紹介してもらったりしました。ご縁はどんどん広がり、外国人労働者の日本語教室で勉強させてもらったり、外国籍児童や留学生と交流したりと、様々な経験をさせていただきました。また、「メディアの情報を鵜呑みにするのではなく、実際に自分の目で確かめることが大切」との言葉を受け、外国にも行って見ました。色々な出会いを通して、自分が今まで見えていなかったものが見えるようになってきました。隠れた人種差別に児童労働の実態、周りから嫌な顔をされがちだが、実は休みの日も一生懸命日本語を勉強している外国人労働者…今まで何も知らなかったのだと思いました。私には知らないことがまだまだ山ほどあります。日々勉強の連続です。このご時世、実際に足を運ぶことは叶いませんが、お世話になった人や帰国した友達に連絡を取ったり、本を読んだりして学ぶ毎日です。

思えば私は、本当にご縁に支えられているなと感じています。I 先輩は、私の「自分の生徒にも話を聞いてほしい」という願いに応え、前の勤め先である小学校に講演に来てくださいました。また、私には卒業して4年目を迎える今でも、質問に丁寧に答えてくださる教授や、共に学ぶゼミの仲間がいます。色々な経験をさせてもらったことで、生徒に伝えられることも増えました。感謝の心を持ち続けなければと感じています。そして、出会いや経験の大切さに改めて気付かされました。

●高校生のみなさんへ

私は高校時代、臆病で先生に質問もできない、怖くて一人で電車にも乗れないような生徒でした。しかしいつの間にか、自ら出会いを求め、一人で飛行機に乗って旅をすることもで

きるようになりました。「自分を変えたい」という思いがあれば、きっとできると思います。

コロナウイルスの影響で普段とは違う生活を強いられている中ですが、新しい仲間や先生との出会いを楽しみに、今できることをお互い精一杯やりましょう。危機に立ち向かった経験はきっと自分の自信になります。そして、今の我慢はきっと後々大きな力になるはずです。「～したい」「～へ行きたい」等、やりたいことを見つけて、実行するためのエネルギーをためておきましょう。コロナが落ち着いたら、そのエネルギーをいっぱい発揮してくださいね。

皆さんの後輩になりたい中学生も頑張っていますよ！

皆さんの健康と、今後の益々のご活躍を心からお祈りしています。読んでいただきありがとうございました。

【インドにて】



寝台列車で旅を共にした、国籍も宗教も違う人たち 笑顔が素敵なスラムの子どもたち